

帰塚・烏塚について

四中校内には、全国でも珍しく塚(お墓)が2基あります。校地の南東にあるのが「帰塚(かえりづか)」、校地の南端中央付近にあるのが「烏塚(からすづか)」です。「かえりづか」の名前はPTA広報誌の名前にもなっています。四中生なら知っておきましょう。



校地の南東にある「帰塚」



校地の南端中央付近にある「烏塚」

平安時代、垂水(現在の吹田市)の岩氏長者が長柄(ながら)橋(淀川に架かる橋)を造る際に、福井城山(四中の北側)の娘が長者の家に嫁入りしたが、父が度重なる洪水から橋を守るために人柱になることを申し出たことを知り、ショックで口がきけなくなった。夫は妻を実家に送り帰すことを決め、天竺(てんじく)川付近にさしかかると、突然キジが鳴き夫がそれを射た。妻は「物いわじ父は長柄の人柱 キジも鳴かずばうたれざらまし」とうたった。言葉を取り戻したことに喜んだ夫は、自分が射たキジを大切に葬ろうとして埋めたのが帰塚、同時に射られたカラスを埋めたのが烏塚という。

(出典:マチゴト豊中池田ニュース、能勢街道をゆく⑤より)

但し、諸説があって吹田市垂水町1丁目にある「雉子躰(きじなわて)」の碑でも、ほぼ同じような話を伝えています。四中は「服部遺跡」の上に位置しており、実際に塚があるので感慨深い話ですね。



校長先生はじめ、PTA役員で祈禱式を行いました。



細道を進んだ先の
テニスコート横に
帰塚があります



四中は「服部遺跡」の上に位置しています。この遺跡は、東館の建て替えに伴う土地の調査で「土器のかけら」が発見され、建て替え前に発掘調査が行われたそうです。

※—全国遺跡報告総覧より—

『弥生時代中期後半から古墳時代初頭の集落から竪穴建物・掘立柱建物・土坑・溝を検出した。弥生時代中期後半から集落が形成され、周溝墓の可能性のある溝も検出した。弥生時代後期後半から古墳時代初頭には集落は最も盛期を向かえ、竪穴建や掘立柱建物をはじめとして多くの遺構や遺物が検出された。』